

### 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170502181		
法人名	株式会社 グローバルケアマネジメント		
事業所名	ポテタウン南の沢		
所在地	札幌市南区南沢1822-63		
自己評価作成日	平成27年11月16日	評価結果市町村受理日	平成28年1月20日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kan=true&amp;JigrosyoCd=0170502181-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kan=true&amp;JigrosyoCd=0170502181-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	平成27年11月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

札幌市郊外の自然豊かな住宅地に位置し、ラベンダー発祥の地としても有名で東海大学では毎年ラベンダーコンサートが開催されております。6月末からラベンダーを眺めながら河川敷を歩く散歩コースでは四季が感じられ、思わず利用者様から「気持ちいいねー。きれいだねー。」という言葉と笑顔があふれます。また、南沢地区では、行事等も活発に行われ、お正月の初詣、南沢神社のお祭り、町内会運動会、餅つき大会などの参加を心掛け、交流を深めるよう努めております。四季折々の行事、恵まれた自然環境に喜びを感じ、健康的な生活が維持できる様、日々努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ポテタウン南の沢」は、バス停から数分の住宅地に立地している2階建て1ユニットのグループホームである。2階に5部屋があり、1階の生活の場に移動する階段の上り下りは運動になり自立に繋がっている。居間や廊下の壁には職員が装飾を施した利用者の作品を中心に飾り、温かで家庭的な雰囲気である。平成15年に開設した当事業所は開設当初から地域との関係作りを積極的に行い、利用者は地域に馴染んで暮らしている。町内会の運動会や餅つき行事に継続して参加している。神社祭りには出店やバザーで洋服や文房具などを買い、参加している子供たちとも交流を楽しんでいる。地域の防災訓練に協力したり、事業所の避難訓練には運営推進委員や近くの施設の職員も参加するなど災害時の協力体制もできている。外部研修に職員の参加が多く、受講した職員は月例会で伝達研修を行い内容を共有してケアに活かしている。管理者と職員間のコミュニケーションも良好で、日々学びながらケアの資質向上に取り組んでいる。天候を見て利用者は近隣の花を見学したり、南沢神社や河川敷などで散歩を楽しみ、会話から馴染みの場所を選んで「豊羽鉱山」や「さっぽろ湖」などに出かけている。食事では献立に月1回特別メニューを提供し、誕生日などには外食を計画し、各自が好きな料理を選んで食事を楽しんでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月行われる月例会では理念を唱和し穏かな日常を送れる様に地域の行事等にも参加し交流を深めています。	理念に「住み慣れた地域での安心した暮らし」という地域密着型サービスの内容を盛り込み、要所に掲示している。職員は理念を意識して町内会や地域の行事に参加して住民と交流している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣の福祉会館に行き、麻雀などの交流が持てる様にとの働きかけをするなど新たな関係を築くように努めております。	南沢神社のお祭りには出店でタコ焼きを食べたり、参加している子供たちと交流を楽しんでいる。介護度が重くなり、徐々に外での交流が難しくなっているので、近くの大学に働きかけてボランティアとして学生の来訪に繋げたいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域で行われる運動会や南沢神社のお祭りなどに参加し町内の皆さんとの交流を持ち認知症の理解を深めてもらっております。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域での行事等の参加に関しては、運営推進会議ではポテト新聞などで近況報告をしております。	会議では各報告のほか、認知症の症状について資料を提供しミニ勉強会も行っている。事情で町内会からの欠席が多いので参加への働きかけを検討している。全家族に会議案内を送り、参加できない家族の意見をも話題にして内容を充実させたいと考えている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日常的に利用者様との入居、退居状況などその都度連絡し、病院等の受診等も知らせております。	管理者は市役所に出向いて、介護認定の区分変更などで担当者に確認している。生活保護担当者とは利用者の生活一般の相談や、担当者の訪問時には情報を伝えて協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在介護経験の長い職員が常勤であり、常に拘束のないケアを心がけております。玄関の施錠に関してはチャイム等で出入りの確認をしております。	外部研修に参加した職員は月例会で報告会を行い、感想などの報告書を作成し身体拘束をしないケアを全員で確認している。職員採用時には、身体拘束ゼロを目指してのパンフレットを見ながら身体拘束禁止行為を説明している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者様への言葉がけで改善した方が良くと思われることは、お互いに話し合いながら解決する様心掛けております。		

ポテトタウン 南の沢

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度に関しては以前利用されていたご家族の方がおりましたので、職員は認識しております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明書、契約書をわかりやすく説明し納得されるまで十分にお話しております。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月お送りしている支援経過、受診記録、往診で普段の利用者の様子を伝え、家族からの要望を受け入れ易い状況にしております。	毎月各報告書をパソコンで作成し、本人の写真を同封して家族に送っている。家族が来訪した際に介護計画の見直しを話し合い、ケアの提案を取り入れている。今後は更に家族の些細な思いをも把握できるように個別の記録方法も考えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行われる月例会等で職員の要望などを聞き、職員全体で話し合う機会を設け、改善するよう努めています。	月例会で職員の意見を取り上げて業務の流れを決めたり、ケアの提案などについて活発に意見を交わしている。職員は利用者担当、行事担当などの業務分担で運営に参加している。管理者は業務の中で日々意見を聴いて対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	利用者の要介護度が重度になりつつあり、有給休暇などを実施してもらい健康管理に努めております。給与水準に関しては、社長に伝え改善等行っております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要と思われる研修、改善が求められる講習会にはなるべく参加してレポート提出し皆で話し合いを行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	知り合いの介護職員等と交流する機会を設け、自分達で取り入れていける内容等については実施しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者の基本情報を把握しながら、日常の何気ない会話や生活の中で入居者の不安や要望に添えられる様な信頼関係を築ける様、支援しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用を開始する段階で家族などに説明し疑問点があれば納得いただくまでお話をして実行するように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人との面接時に要介護度と状況を見極め、家族の説明により必要なサービスを検討し、実施しております。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご自身で行える事はご自身で行って頂き、難しい所は手助けする形で行う様にしています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常にご家族との連携を密にし、入居者様日々の過ごし方など手紙や電話にて伝え、通院や外出のサポートをお願いするなど共に支えていく態勢を築いています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔話を傾聴し、懐かしい音楽、童謡などのレクリエーションの支援に努めています。	頻度は少ないが幼馴染や友人の来訪がある。住んでいた町のラーメンが美味しかった話もあり、会話から得た思いに沿えるように、勤めていた「豊羽鉱山」の近くや地域で馴染みになっている「さっぽろ湖」などを外出行事に取り入れて支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングにてテレビを見たり、おしゃべりしたり、楽しく過ごして頂けるよう支援します。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居した利用者様の家族からの問い合わせなどには必要に応じて対処し利用者様の近況も報告していただいております。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人とご家族の関係を大切にし、頻繁に来られているご家族様には利用者様のケアプランに反映させる様にしております。	利用者に寄り添って思いを把握している。アセスメントシートを1~2年に見直しているが、今後は1年ごとに更新し、その間の趣味や嗜好などの変化を追記し、現状の把握に努めたいと考えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	自分の住んでいた地域の環境、好きな食べ物等を把握し提供できるよう心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の残存能力を生かし、要介護状態の現状維持に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月モニタリング表を職員が使用する机の上に出し、自由に介護計画を記入し、月例会の時に話し合い介護計画を作成している。	3か月ごとの見直し時に、職員の評価シートを活かしながら会議で評価し、本人・家族の意向を取り入れて介護計画を作成している。職員は介護計画の課題(ニーズ)に沿って変化なども記録しているが、計画表の番号など更に工夫が望まれる。	短期目標の整理と、項目ごとの番号に沿ってサービス内容に番号を振り、流れが分かるような工夫に期待したい。また、職員が短期目標に沿って連動した記録ができるように、記録シート項目の見直しも期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践結果等の介護記録を通して支援経過としてまとめ、計画の見直しをしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人のこだわりの部分に関しては、なるべく意見を聞き入れ、好みの状態でサービス提供している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会での行事になるべく参加し、ホームの名前も覚えてもらい、災害等には互いに協力できる体制を作っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	最初に本人の体調、病状を家族に知らせ、家族で対応できない時、或いは、急を要する時は施設で受診し、結果は電話にて伝えております。	希望に沿って月2回、協力医の訪問診療を受けている。専門的な他科受診は家族が対応しているが、事情に応じて事業所も受診同行している。受診内容は個別に記録しており、利用者ごとに分かりやすく整備中である。	



ポテタウン 南の沢

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	家族からの依頼に対してはソーシャルワーカーに連絡し受診、或いは往診で可能かどうかを検討しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院してからは見舞いも含め本人の様子は随時把握するように努めており、主治医にも退院の予定を伺い施設での元の生活に戻れるよう対応しております。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に関しては、個々の病状、容態によりその都度、家族に説明し、主治医との意見も聞き入れながら支援していくつもりです。	利用開始時に「重要事項説明書」の中で、重度化から医療行為や入浴で機械浴が必要になる時は設備の関係もあり、対応が難しいことを説明している。状態の変化により、主治医、家族と対応を話し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	高齢者の緊急時の救命応急手当等で内容を把握し、緊急の場合には管理者、家族に連絡する体制をとっております。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昨年の避難勧告の際は、管理者から南沢福祉会館に連絡し現在の避難状況を確認し、その後の対応を検討した。	夜間を想定した避難訓練を6月に実施し、12月にも予定している。訓練は消防署の立会いで運営推進委員や近くの施設職員が見学で参加している。地震を想定した訓練は今後の課題になっている。	運営推進会議で災害時の地域との役割分担を明確にして次回の避難訓練を行うことを期待したい。また地震などを想定し、事業所内の安全の確認やケア場面での対応について話し合うことも期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレへの誘導等はさりげない言葉掛けやサイクルを把握し、仕草やサイン等を見逃さない様努めています。	申し送りはアルファベットで行い、気になる言葉かけがあればその都度注意している。日常的に記録する書類は、個人名が特定できないような取り扱いを検討している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	洗濯等で服を着替える時、本人にどれを着るか確認してから用意する。シーツ交換などで小物など移動させる時、元の位置に戻すようにし本人が使いやすいよう配置するようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	就寝時間が過ぎても観たいテレビややりたい事があれば本人の希望に沿って支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望を合わせ服を選んだり、その人らしいおしゃれが出来るよう支援します。		

ポテトタウン 南の沢

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	おやつの時などは声をかけながら、一緒にいただき、本人の好みの食べ物を把握するよう努めています。	食材会社の献立を活用しているが、月1回は利用者の好みを聴いて特別メニューにしている。誕生日会などで外食に出かけ、うな重など各自が好きな物を食べている。下膳を手伝う利用者もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取に時間のかかる利用者様には、時間差で提供し、十分な栄養水分摂取を心掛けています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施しています。義歯洗浄剤毎日一回実施しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的に声かけ誘導を行い、トイレ内での排泄を心掛け清潔を保つよう支援しています。	介助が必要な利用者の排泄を記録して、随時声かけをしてトイレでの排泄を支援している。「排泄コントロール」の外部研修に参加して自然排便に繋がったり、ストレッチ運動で尿意の改善など自立に向けて取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日のストレッチ、ラジオ体操等の運動や散歩等で体を動かし、牛乳、ヨーグルト、サンファイバー等で摂取して頂いて整腸に努めています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	介助が必要な人が多いため週4回の入浴日を設けていますが、体調または要望があれば入浴、シャワー浴、清拭など行っています。	火水・土日の午後の時間帯で、各人週2回の入浴を支援している。希望に応じて入浴回数を増やすこともある。身体状況に応じてシャワー浴で対応したり、見守りで入浴できる方もいる。入浴剤を替えたり会話をしながら入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日常的に自由に居室で過ごして頂き、特に昼食後には各自の居室で休息して頂いております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	調剤薬局による副作用の情報は全職員認識、誤薬、飲み忘れ対策として薬配、役割の徹底に努めております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節の行事、お誕生日会など外出による気分転換の支援をしています。本人の好みを聞き、外食をしています。		

ポテトタウン 南の沢

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日や暖かい日など、入居者様の健康状態を確認した上で散歩やドライブ、時には外食、町内の行事に参加しています。	天気の良い日は南沢神社や河川敷、近隣の花を見学するなど、各利用者に合わせて散歩コースを選んでいる。外出行事で羊が丘展望台や石山緑地、さっぽろ湖などに出かけている。定山溪に出かけて、お花見や紅葉見学を楽しんでいる。冬季も初詣に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人がほしい物があれば付き添って買い物に行ったり、町内のお祭りで買い物したり、お金の大切さを実感してもらえるよう支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	相手方からの電話には本人に伝え対応しています。手紙、葉書きに関してはこちらから声かけする様にしておりますが、自らは発送せず来訪した時にお話している様です。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	行事の写真や四季を感じられるような作品をみなさんと一緒に定期的に作成し、飾りつけ、季節感を大切に感じられるよう工夫しています。	好きな場所でゆっくり寛げるように、台所を中心に家具の配置を工夫して居間と食堂の空間を分けている。居間の壁には、利用者と一緒に製作した季節の装飾や習字、職員手作りの日めくりなどが飾られている。新聞や雑誌、本などを準備して自由に読めるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	夫婦の居室や居間でテレビを観て過ごされております。居間では顔を合わせた利用者様でお話しされたりしております。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分で書いた書道や作品、写真など飾り家族が来た時に見られるように工夫をしています。	温湿度計を設置して、適切な環境に配慮している。居室には、使い慣れたタンスや椅子、鏡台などが持ち込まれている。職員が綺麗に装飾を施した家族と一緒に写真や本人の作品が掲示されており、家庭的な温もりが感じられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、廊下、階段、ホールなどは手すりを設置し安全確保し、居室のドアにはお名前を貼らせて頂き、自室確認できる配慮を行っています。ホールの歩行空間も車椅子の方が通れる様、配慮しています。		



目標達成計画

事業所名 ポテタウン 南の沢

作成日：平成 27年 12月 24日

市町村受理日：平成 28年 1月 20日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	26	利用者の要介護度の重度化により細かいサービスが行われ項目が増えてきていた。	サービス内容を整理し、職員、家族共に解りやすい内容にする。	介護計画、介護記録を見直して介護記録の方には援助目標を短期目標と設定する。	3ヶ月以内
2	35	火災時には南成園の管理者、町内会では管理者、民生委員等に応援の依頼をしているが、地震時のマニュアルも徹底していきたい。	町内会の防災委員に推進会議等に出席頂き、具体的な避難訓練等の役割も決めていく。	地震等に関する細かいマニュアルを作成する。	3ヶ月以内
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。